

特集2

思いやり と優しさ を広げて

私たちの生活はコロナ禍で大きく変わらざるを得ないものとなりましたが、“人と人とのつながり”や“他の人への思いやり”を大切にすることが変わることはありません。

今月号は地域の絆を結び続けてきた活動について、また「明るい社会にするためにできること」について考えた、ここのえ緑陽中学校生徒のエッセーと作文をご紹介します。

一人ひとりが幸せに暮らしていくよう、私たちがもっている「思いやり」と「優しさ」を、九重町に広げてみませんか？



いのち・愛・人権フェスティバル が開催されました



▲ 12月7日に「第22回 いのち・愛・人権フェスティバル」が九重文化センターで開催されました。

今年は“100年の想い”～語る・つなげる・人権の輪～をテーマに、『なるほど・ザ・人権講座』(P18「心の扉」)で講座の様子を紹介)の実践報告や、ハンセン病患者の体験をもとに描かれた「わたしは、人間であって人間でなかった」が紙芝居で発表されたほか、ホールでは人権パネル展や各地区人権・部落差別解消啓発推進協議会の活動報告などが展示されました。

● インターネットで相談する



◀相談フォームに氏名・住所・年齢・相談内容等を記入して送信すると、最寄りの法務局から後日、メール等で回答されます

「おおいた教育の日」エッセー
中学校の部 最優秀賞（大分県教育の日推進会議会長賞）

笑顔のために

九重町立ここのえ緑陽中学校 3年 加木みゆな

「新しい朝が来た、
希望の朝だ」
夏休みの私の一日はこの歌と共に始まります。私は中学生になつてもラジオ体操を続けます。私は今中学3年生です。中学生になつてもラジオ体操を続けます。毎日近くのバス停の広場でラジオ体操に参加するのは、私たち中学生二人と近所のお年寄りです。私の住む地域は、子どもの人�数が少ないです。私が小学校の低学年の時には兄や姉もいて

喜ばれたり、褒められたり、感謝されたりしています。今年は特にその感謝の気持ちを私の通う中学校の校長先生に報告していました。校長先生からは「中学校が統合して地域に子ども達の声が聞こえなくなつたと言われることが多い中、あなたのしていることは地域との絆をしっかりと結んでくれるすばらしいことです。ありがとうございます。私もとても嬉しいです」



加木さんが作ったスタンプカード。
花火やスイカ、花を1枚1枚手描きして、お年寄りの名前を書いて渡しています。